

科目名称	神経障害系理学療法学
授業コード	AD278
英語名称	Physical Therapy in Neurological Disorders I
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	平賀 篤, 大西 健太
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	(B)自己実現能力の養成を目的とする。 神経障害系理学療法に必要な知識及び技能を習得する。本科目では臨床での実施頻度の高い脳血管障害の病態的な背景を把握し、それにより起こりえる障害像を理解する。また脳血管障害に即した理学療法の評価と治療理論、技術を学ぶ。臨床にて長年中枢神経疾患のリハビリテーションに従事してきた教員が、その経験を活かし教示する。また最新の治療技術なども随時取り入れる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	脳血管障害に関する理学療法臨床現場に10年間従事した教員に加え、現在も山梨県内地域にて脳血管障害分野の地域リハビリテーションに関わる非常勤講師による最新の知見を講義する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「理学療法士国家資格に準拠した基礎医学、臨床医学および理学療法の専門的知識を修得している」ならびに「基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけている。」を達成するため具体的目標を以下に定める。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 1. 脳血管障害に起因する機能障害が理解できる。 2. 障害の多様性を理解し、適切な評価法の選択と実行ができる。 3. 脳血管障害に対する理学療法の知識および技術に関する基本が習得できる。 4. 上記評価から障害の個別性を導き出し、それを捉えた上で適切な理学療法内容を展開できる。
計画・内容	1) 脳血管障害の基礎知識 脳・中枢神経系の構造と機能局在、画像の見方と医学的管理 担当：平賀（理学療法士） 2) 脳血管障害の基礎知識 脳血管障害の症状特性1 担当：平賀（理学療法士） 3) 脳血管障害の基礎知識 脳血管障害の症状特性2 担当：平賀（理学療法士） 4) 脳血管障害の基礎知識 脳血管障害の症状特性3 担当：平賀（理学療法士） 5) 脳血管障害の回復過程と時期による評価・治療1 担当：平賀（理学療法士） 6) 脳血管障害の回復過程と時期による評価・治療2 担当：平賀（理学療法士） 7) 脳血管障害の回復過程と時期による評価・治療3 担当：平賀（理学療法士） 8) 脳血管障害理学療法の実際と治療技術 担当：大西、平賀（理学療法士）  必要に応じてグループワークや授業時課題なども設定する。詳細については講義時に伝える。
授業の進め方	各テーマについて講義形式で行う。 授業内で小試験やレポートを課す場合もある。

授業の進め方	評価方法、治療手技などが各テーマ内にある場合は適宜実技や演習を行う。
能動的な学びの実施	基礎知識を中心とした講義を前半に行い、後半ではその知識を基盤とした複数回のグループワークと授業内実技演習を行う。
授業時間外の学修	授業範囲部分について事前に教科書を読み、不明点をまとめておく。また授業後には内容をまとめておくこと。(合計15時間程度)
教科書・参考書	【教科書】原寛美；脳卒中理学療法の理論と技術，メジカルビュー 【参考書】酒向正春；コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像，メジカルビュー 吉尾雅春；症例で学ぶ脳卒中のリハ戦略，医学書院
成績評価方法と基準	授業内小試験およびグループワークと課題(20%)、また期末試験(80%)の成績によって総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	・学生発表や提出課題は適宜授業内でフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実技、実習は適宜行うので動きやすい服装で参加すること。 教科書、参考書及び授業内資料を用い、適宜予習復習を行うこと。 本科目は3年時に開講される「神経障害系理学療法学」での科目内容において必須となる知識のため、十分に予習復習をすること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業はZoomを用いたオンライン講義を中心に実施する。グループワークについてもZoom内の小グループ機能を用いて実施する。  授業内小試験およびグループワーク評点と授業内課題(50%)、また授業の最後に提示するレポート(50%)の成績によって総合的に評価する。